

令和4年度 学校評価書

令和5年1月13日

1 学校教育目標 よく学び、心豊かにたくましく生きる児童の育成

2 経営の基本方針 「伸びる」を合い言葉に、確かな教育活動を実践し、確かな学力の定着を図るとともに、保護者との信頼の絆を強め安全安心な学校づくりを推進する。

評価領域	評価項目	評価の観点	評価(1~4)			考察及び改善方策 ○成果 ●課題、取り組み	学校関係者評価委員の評価
			教職員	児童	保護者		
生徒指導	いじめ・不登校等への対応	いじめや不登校の兆しを早期に把握するとともに、児童や保護者の思いに寄り添い、適切な相談や支援・指導に努めている。	3.6	3.7	3.1	○いじめについては、早期発見・積極的認知に努めるとともに、問題の早期解決のために情報を共有し、生徒指導主事を中心として組織的な対応に努めた。学校全体にいじめをしない、いじめを許さない風土が醸成されている。 ●不登校や不登校傾向児童への対応も組織的に行ってきたが、根本的な解決には至っていない。関係機関や地域・家庭との連絡を密に取り、よりよい支援を行い解決を目指す。 ●基本的な生活習慣の定着を図るには、家庭の協力が欠かせない。各学級担任による児童への指導と併せて、学年だより・保健だより等で家庭への啓発をする。	・ヤングケアラーや子ども食堂についての実態を把握することから見えてくるものもあると思う。 ・基本的な生活習慣の定着には、家庭の協力が欠かせない。家庭への支援・教育も大切だ。 ・不登校や不登校傾向の児童やその保護者には、学校に限らず誰かとつながってほしい。
	基本的生活習慣の定着	「早寝・早起き・朝ごはん」や歯磨きの習慣化や身の回りの整頓など、基本的生活習慣が身に付くよう指導に取り組んでいる。	3.6	3.3	3.0		
	いじめをしない・許さない人間づくり	いじめを身近な問題と捉え、自分の行動を振り返るとともに、相手の立場に立った言動のできる児童の育成に努めている。	3.6	3.8	3.5		
確かな学力を育てる教育	基礎・基本の定着	「えひめ学びの森」や「みんなの学習クラブ」の活用や「まなびの時間」や「算数教室」の充実を図り、基礎的・基本的な技能や知識の定着を図っている。	3.5	3.6	3.1	○児童同士の対話を進めることによる意見を練り合い・高め合う授業公開を行い、研修を進めた。学年部や学年団など、組織として授業づくりに取り組んだ。 ○1人1台端末を活用して、学校や家庭で自主的に学習ができる環境が整っている。また、欠席した児童へは、ロイロノートを活用して授業の板書やプリントなどを配布している。 ○N I E全国大会に向けて新聞を活用した学習に取り組み、情報活用能力や読解力の育成に努めている。 ●新型コロナウイルス感染症による学習の遅れや個別指導の難しさがある。話し方や聞き方の指導を一層強化する。 ●1人1台端末は家庭での活用方法を含め、検討していく必要がある。	・新聞を活用した取組はすばらしい。今後も新聞を読む習慣を身に付けさせてほしい。 ・1人1台端末の活用には当たっては、すべてを電子化するのではなく、直接対話、紙媒体でのやりとりは残すべきだと思う。
	家庭学習の充実	学年の発達段階に応じた家庭学習が行えるよう、学習の内容や方法、時間などについて具体的に指導するなど、学習習慣の育成に努めている。	3.4	3.4	3.1		
	伝え合う力の育成	授業において練り合い・高め合いの場を効果的に設定することにより、自分の考えをもち、他者と豊かにかかわり合い、伝え合う力の育成に努めている。	3.3	3.3	3.2		
	個に応じた指導の充実	指導方法の工夫・改善により、児童一人一人の特性に応じた学習指導の充実を図り、児童が主体的に学ぶ環境を整えるよう努めている。	3.4	3.6	3.1		
豊かな心、健やかな体を育てる教育	道徳教育の充実	道徳の時間をもとより、主教育活動を通して、主体的に考え、自分自身や他者対話しながら、よりよく生きることに努める機会をつくるなど、道徳教育の充実を図っている。	3.6	3.6	3.3	○支持的な雰囲気のある学級、学校づくりを教職員一人一人が意識して行った。学級全体、学校全体で児童一人一人のよさを認めたり、一人一人の違いを受け入れたりすることで、優しい児童が育っている。 ○校内マラソン大会や業間マラソン、各学年の縄跳び大会を通じて、児童の意欲や最後までやり抜く態度や意識を高めることができた。 ○栄養教諭の積極的な取組により、地産地消など食に対して児童の関心が高まった。 ●新体力テストの結果が全国平均より劣る。体力面での二極化も見られ、体力や運動技能の低下が懸念される。今後も、体育科の授業や体育的行事で、運動への興味・関心と体力の向上を図る。 ●体を動かすことを苦手としている児童には教師が声を掛けたり、一緒に屋外で遊んだりすることを継続していく。	・全体的に教職員・児童と比べて、保護者の評価が低い。 ・保護者が、食生活の大切さをしっかり教えてほしい。 ・幼児期・学童期に身体を動かすことは、将来の健康寿命と関係があると言われている。コロナ禍と相まってよりいっそうインドアの子どもたちが多くなっているように思う。体力づくりは大切だと思う。屋外での遊びを仕向けてほしい。
	仲間づくり・集団づくり	互いに助け合い、よさを認め合うような支持的風土を培うことにより、認め合い、励まし合い、高め合う仲間づくりに努めている。	3.5	3.7	3.3		
	健康づくり・体力作り	ITスタジアムへの参加や外で元気に遊ぶことを奨励することで体力の保持増進に努めている。	2.8	3.1	3.3		
	粘り強くやり通す態度の育成	活動のねらいを明確にし、自分のめあてをもたせ、最後まで粘り強くやり通す態度の育成に努めている。	3.5	3.5	2.9		
	食育の推進	栄養教諭と連携して、日々の給食指導を充実させ、「食」についての学習に取り組み、食に関する正しい知識と望ましい食習慣を身に付けさせるように努めている。	3.7	3.6	3.0		
特別支援教育	特別支援教育の充実	教育相談を実施し、多面的な児童理解に努めている。	3.5	3.4	3.3	●保護者の通級指導教室へのニーズが多様化している。個に応じた指導を行い効果を上げているが、通級を希望する児童が増加している。	・通級の希望者が多いことは、特別な支援を必要とする児童が多いからだろう。
安全・安心な教育環境の整備	登下校の安全確保	家庭や地域と連携して安全に登下校をさせることなど、安全指導の充実を図っている。	3.3	3.8	3.5	○登下校については、保護者・地域の方の協力を得て、安全に実施できている。下校時は、道路に広がることもあり、今後指導に努めていく。 ○避難訓練等を通して、児童の安全への意識を高めることができた。防災や安全に対する児童の意識は高いと言える。今後も継続して防災教育や安全教育に取り組んでいきたい。 ○学校内の定期的な安全点検により、積極的に危険箇所を把握し、早期の改善に努めた。 ●今後スマートインターの開設に伴い、交通量の増加が懸念される。児童の交通安全については家庭・地域と情報交換を密にしていく。	・学校から遠い地域の子どもたちでも、一生懸命歩いている。 ・集団登校では、上学年が下学年の世話をよくするとともに、よい手本を示し、安全意識が自然に身に付いている。
	防災教育の充実	教職員研修や避難訓練、学級活動での指導等による防災教育を進め、災害時に自ら判断し行動できる児童の育成を図っている。	3.5	3.8	3.2		
	安全意識の高揚と自己管理能力の育成	児童や保護者に折に触れてヘルメットの着用をはじめとする交通安全について啓発し、交通事故の防止に努めている。	3.0	3.9	3.8		
	施設・設備の安全管理	安全点検等による潜在危険箇所の早期発見と除去に努めている。	3.7	3.7	3.2		
家庭・地域との連携	開かれた学校づくりとコミュニティ・スクールの推進	学習のねらいに即して、地域の人材や専門家、協力機関等を積極的に活用し、地域とともに児童を育む学校づくりに努めている。	3.4		3.1	○日々の教育活動をホームページや学年・学級通信を通して、保護者に周知した。 ○運動会や校内マラソン大会、参観日などの行事を実施するに当たり、今年度も新型コロナウイルス感染防止の対策に保護者の理解と協力を得られた。特に、運動会については、学校運営協議会委員の皆様にも受付などの業務に協力いただき、有り難かった。 ●今年度も、残念ながら、地域の方々の協力を得ての教育活動が十分には実施できなかった。	・地域住民が学校支援にあまり協力的でないと感じることもある。 ・新型コロナウイルス感染症の感染対策を取りながら、地域とつながる教育活動を推進していただきたい。
	情報の共有化	児童の様子について積極的に家庭と連絡を取り合ったり、学校の教育方針や教育活動等についてホームページや学校だより等を活用して情報の共有化に努めている。	3.4	3.3	3.1		
特色ある学校づくり	ふるさと学習の推進	学年の発達段階に応じて、地域の人・自然・文化を生かした「よしいの」ふるさと学習の推進に努めている。	2.9	3.2	3.1	○運営委員会を中心にして、朝の挨拶運動を推進し、校内では気持ちのよい挨拶をする児童が増えてきた。 ○感染症対策を講じながら、なかよし班活動を実施することができた。縦割り遊び「あそぶデー」を楽しみにしている児童が多くいる。児童に仲間意識や所属感を味わわせることができた。 ●登下校中などの地域の方への挨拶についても、気持ちのよい挨拶ができるように、今後も繰り返し指導・啓発をしていく。	・挨拶運動は特色のあるすばらしい活動と評価している。今後も是非継続してほしい。地域の人も元気をもらっている。挨拶は、保護者にも呼び掛け、積極的に家庭でも取り組んでほしい。 ・あそぶデーの内容の充実、発展を期待する。
	挨拶運動	全教育活動を通して、気持ちのよい挨拶や会釈、返事の定着を図っている。	3.5	3.5	3.2		
	青少年赤十字活動の充実	青少年赤十字の態度目標「気づき、考え、実行する」のもと、なかよし班活動やJRC活動への主体的な参加を通して、奉仕と協働の精神を培っている。	3.2	3.7	3.1		
施設・設備の充実	I C Tの有効活用	特別教室などの各施設や、さまざまな視聴覚教材及び教育機器などの教材・教具を活用して指導の充実を図っている。	3.5	3.7	3.1	○デジタル教科書や、黒板に投影できるプロジェクターの設置で、授業を効率よく進めることができる。タブレットの活用も進められ、児童の学習意欲や理解力の向上を図ることができた。 ●タブレットの効果的な活用については、今後も研修を積み、教職員の指導技術を向上させる必要がある。	・新しい取組でいろいろな問題もあるが、全国的なことでもあり、推進してほしい。 ・どの項目も、児童の自己評価が高く、自己評価がきちんとできていると安心した。
	学習・生活環境充実への取組	校内・教室における学習用具の整理・整頓や作品の掲示や展示の工夫など、児童一人一人の思いや努力を大切にしたい潤いのある環境づくりに努めている。	3.5	3.6	3.3		